

# 富士山ビューポイントを巡る旅

平成24.7.28(土)~29(日)



本栖湖（千円札裏）



起床4:30。真っ先に天候チェック。大半が雲に覆われ、しかも下り坂との予報。果たして富士山は顔を出してくれるのやら。

6:15日立出発、美浦村で林さん、神栖の山川さんを、取手で会長の廣嶋さん、我孫子で深井さんをお迎えして5人が勢揃い。

柏ICから高速に乗り、河口湖ICまで150km。河口湖IC降りた近くのガイドの高山さんとの待合せ時間12:30までには2時間45分もあり楽勝気分。

ところがである。目と鼻の先の柏ICまでの渋滞、首都高速、中央自動車道も何とも得たいの知れない渋滞の繰り返し、おまけに大月ICと河口湖IC走行中の土砂降りの雨、昼食抜きにも拘らず1時間遅れの13:30にガイドさんと落合いますは一安心。

「腹が減っては戦も出来ず」ではないが行程変更打合せもそこそこ（ガイドさんにお任せ）にまずは、腹ごしらえ。ガイドさん紹介で、名物「吉田のうどん」を。安価で、ボリュームもあり、美味しかった。普通は大分硬いうどんのようですが、ガドさんの計らいでいくらかやわらかく、天ぷらもサービスして下さいったようで、嬉しい気分になりました。

さて、見学場所をガイドさんと打合せ。散策時間は大幅に短縮せざるを得なくなり、おまけに富士山は一向にその偉容を現してくれそうもない状況。ここはガイドさんにお任せするしかない。富士山のビューポイントを巡るこの旅行は、天気押し切られた格好になったが、ここは又、来なさいというお告げと受止めカー出発。

最初に案内されたのは「河口浅間神社」。貞観6年5月（864年）の富士山大噴火翌貞観7年12月9日丙辰の勅命により、富士山の神、浅間神社をこの地に奉斎、1148年前に建立されたもの。貞観大地震が、5年後の貞観11年（869年）に発生しており、この地震は東日本大地震と規模、被害状況が酷似しているそう。そういえば、1200年周期説をよく耳にしたがこれがその由縁だったのかと己の無知に情けない気分も起こる。でも、それを知りえたことは、お参りが出来たお陰じゃないか、富士山を見ることは叶わぬが、この旅の成果と妙に納得。

折しも、訪れたこの日（7/28）は、稚児さんの舞奉納の祭典の真っ最中でこれ又、ラッキーな巡り合わせ。貞観6年の大噴火の際、富士山の神を童女の稚児達が古代よりのしきたりに則り舞を奉納されているそう。県人会の発展、仲間のみなさんの健康を祈り、この神社の裏山にある「母の白滝」へ。平安の頃より富士登山者は、村の宿坊を宿としてこの滝で身祓を行い、登山の安全を願ったそう。清楚な滝のマイナスイオンを浴び、一服の涼を得、本栖湖の西側岸に向かった。

千円札の裏の富士山の写真を撮られた場所ということで、今回の旅の最も期待していたスポットではあるが……。途中、思いもかけなかったものにお目に掛かることになった。「クニマスの稚魚」である。絶滅魚といわれていた魚ではあるが2010年12月に70年ぶりに西湖で発見、生息も確認されたという。元々、田沢湖にしか生息していなかったが、酸性水の流入で絶滅したものだそう。富士五湖や琵琶湖（醒ヶ井の養鱒場にも）に移植されたこともあったようであるが、クニマスは確認できなかったとある。クニマスが



山中湖（湖岸）

琵琶湖と、個人的には醒ヶ井（私の実家に近く、養鱒場には度々行っている。）との接点があったなんて、ロマンを感じますし、つい先日「ニホンカワウソ」の絶滅のニュースがあったばかりであるが、やっぱり、地球を大切にですね。

さて、いよいよ期待大のポイント「千円札裏の富士山撮影ビューポイント」へ。この天候（下は日が射しているものの、上2/3は雲一面）では、まず見えないと諦めてはいるものの、一抹の期待を胸に到着。でも、やっぱりダメでした。ガッカリ感は拭えませんが、又の機会に。

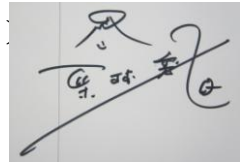
湖手前岸部でキャンプをしている一団。その沖合いに目を転じると、仲間の「エーゲ海と変わらんね」と言わしめたコバルトブルーの湖面の美しさ。富士山のゴミの汚れをよく耳にするせいか富士五湖もそんなイメージが強く、この美しさには感激。そう、そう、地球を大事にですね。

ここまでの見学でタイムリミット。ホテルへ向かうことに。

今朝早く起きて、ほぼ12時間経過。みなさん、お疲れのことであろうと、「コーヒータイム」をガイドさんに提案。つい先日、TVに出演されたという富士山撮り続けて何十年の写真家、「栗林秀旭」さんの喫茶工房が通り道にあり、そこに寄りましょう、と全くグットタイミング。富士山の写真に囲まれ頂いたコーヒー。いい香りがしてコーヒーってこんなに美味しかったんだ。

（右のサインは先生直筆のものです。）

河口湖ICから高速で一区间乗り山中湖ICで降り、ホテルチェックイン18時過ぎ。



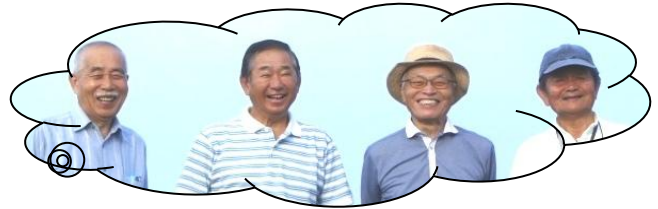
18:30から食事ということで、あたふたと部屋に入り、シャワーを浴びる時間もなく、チョコっと仕度をして食事に。

レストランの窓から日没前の富士山が薄ボンヤリと見える小綺麗なレストランで洋食に舌鼓。ビール、ワインにスミノファンズという怪しげな？物（これって飲み口良く美味かったですよ。）まで飲みながら、何と2.5時間も話が弾み、数組居たお客さんはいつの間にか居なくなっていました。

話題は、何と言っても健康談義。5人の内3人の方が大病を患われた経験があり、こうして旅行に参加出来る様、普段の努力も並大抵ではないことを微塵も出さず、楽しんでやっいるよ、と言うような雰囲気圧倒されます。県人会で知り合った色々な分野の仲間が、年に一度でいいから集まり、旅することの喜びは、本当にいいもので、継続して

明くる朝、朝焼けの富士山見られたら最高とばかり、5時に起床し車で予めホテルオーナーから聞いておいたビューポイントの山中湖岸へ。

湖面から水蒸気が立ち昇ってそれが一面の雲となり、富士山はさっぱりみえない。毎日、この時間に散歩しているという地元の方の解説宜しく、雲の流れの方向も良く、早いため見えるぞとのお告げにのりひたすら待つこと30分。雲の切れ目から頂上付近がウッスラと、チラッと見えること2度。諦め、湖を1周すればどこかで見えること確実とばかり、グルッ1周することに。この場を離れる前に記念撮影バシャリ。4人のこのいい笑顔は、何んなんだ！！



走り始め1分もしない湖岸から200mも離れた地点で、ほぼ全容を現した富士山が本当にウッスラと出現。湖岸とチョット離れた大地でこんなに違うとは。水蒸気の力に驚嘆するばかり。

結局、湖を1周するも、どこからも見えずホテルに戻り朝食。その後、部屋に集まり県人会の報告、今後の運営について協議し、ロビーで県人会旗を掲げ記念撮影し岐路に。



小田原城を見て、東名で帰ることにしたが、まだ未練たらしく富士山を眺められるビューポイントがないか、オーナーに尋ねると、小田原へ抜ける途中のパノラマ台がいいと案内を受け、期待しながらそのポイントに。「やっぱりねっ！」って感じ。今回の富士山ビューポイント3箇所、いずれも恵まれずこれにて幕引き。

峠を越え、小田原に。駐車場を見つけ小田原城見学に下車。「ギャー、熱い」。でも、この暑さにめげず元気一杯の仲間、ビバ！茨城滋賀県人会！！

